

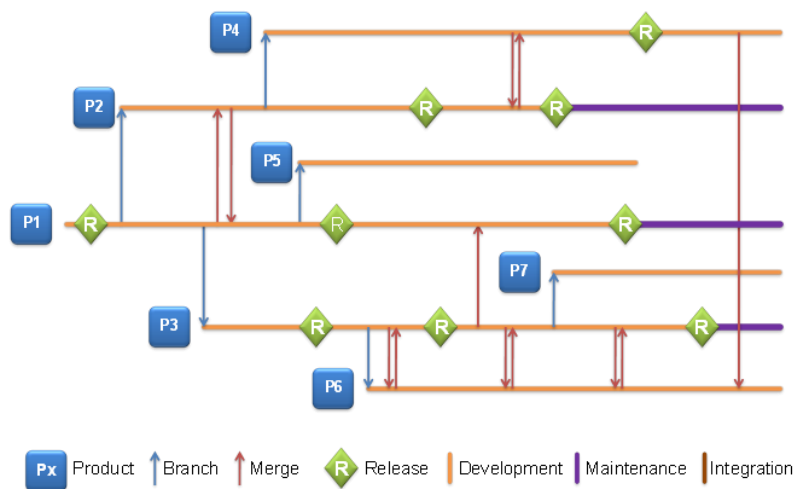
# まぜるな危険!

XDDP	社員 😊
SPL	会社 😊
再利用	まぜて使おう!

バージョン	同じ資産の経時変化
バリエーション	資産間の相違
変更	まぜるな危険!

「バリエーション管理」で仕様の爆発を抑え SPL につなぐツール

こんなことになる前に!



© pure-systems GmbH

さらに詳しい情報 => [http://www.fuji-setsu.co.jp/products/purevariants/xddp\\_SPLE.html](http://www.fuji-setsu.co.jp/products/purevariants/xddp_SPLE.html)

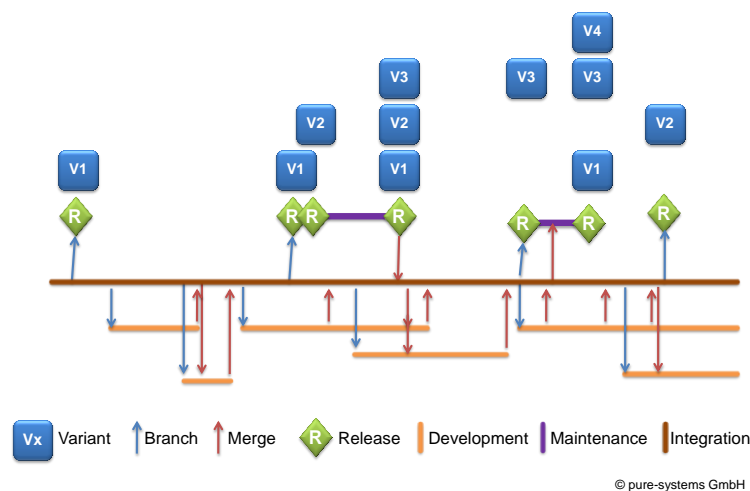
## 派生開発からプロダクトライン開発へ ～再利用の秘訣～

動機は同じ「再利用」であるのはまちがいない。だが XDDP と SPL は互いにどういう立ち位置にあるのか。一方が他方を補助するツールなのか。いつかは XDDP から SPL へ移行しなければならないのか。そもそもまったく次元の違う概念ではないのか。議論は尽きないけれど、答が出るまで待つてはられない。今すぐ模索を始めよう。合言葉は「社員がうれしい XDDP、会社がうれしい SPL」だ。

ソフトウェアの変更をバージョンという単一のインデックスで管理するには無理がある。仕様の枝分かれと、枝分かれした個々の仕様の進化という多次元迷路こそが現実の商品体系だからだ。バージョンとバリエーションを明確に区別するバリエーション管理手法は XDDP の変更設計とも親和性が高いはず。バリエーション管理を実装した SPL ツールである `pure::variants` は、はたして多次元迷路を見通す魔法の地図になるのか。

### こんな症状でお悩みでは？

- ・コードを再利用するつもりだったのに、苦労を再体験してしまった。
- ・やっとバグをつぶしたと思ったら、コピペ先でバグが進化していた。
- ・同じ改修を何度も繰り返している。悪い夢を見ているようだ。
- ・ブランチ×バージョン＝爆発



共有ベースからバリエーションが生産される状況。バリエーションの導出には `pure::variants` のようなバリエーション管理のために設計されたツールを使うべきである。ただのバージョン管理ツールでは、バリエーションポイントの扱いを人手に頼ることになるからだ。

**製品間の差異をバージョンではなく  
バリエーションと捉えることで  
バリエーション管理という新しいドアが開く**